

令和6年度 日本植物病理学会関西部会プログラム

日程 令和6年9月19日（木），20日（金）

会場 愛媛大学 城北キャンパス
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3
(<https://www.ehime-u.ac.jp/>)

受付 共通講義棟A エントランス

事務局 共通講義棟A A22教室

第1日（9月19日）

11:30～	受付開始	共通講義棟A エントランス	
13:00～14:00	総会	グリーンホール	
	シンポジウム	グリーンホール	
	部会長	高野 義孝	
	テーマ：	関西部会と宿主特異性と私	
14:20～18:10	一般講演		
第1会場 A11教室 101～120	第2会場 A21教室 201～219	第3会場 多目的レクチャー室1 301～318	
病原性・抵抗性，感染生理，病原体の性状 (菌類病)	検出・診断，分類・同定，防除薬剤・薬剤耐性，生物防除・防除法，その他 (細菌・ファイトプラズマ病，ウイルス・ウイロイド病，植物保護，菌類病)	病原性・抵抗性，感染生理 (細菌・ファイトプラズマ病)	
18:30～20:30	情報交換会（大学会館内PALTO）		

第2日（9月20日）

9:00～11:25	一般講演		
第1会場 A11教室 121～130	第2会場 A21教室 220～229	第3会場 多目的レクチャー室1 319～329	
感染生理，病原性・抵抗性，その他 (菌類病，植物保護，細菌・ファイトプラズマ病)	発生生態，分類・同定，病病原体の性状，その他 (植物保護，菌類病，細菌・ファイトプラズマ病)	病原体の性状，生物防除・防除法，感染生理，病原性・抵抗性，発生生態 (ウイルス・ウイロイド病，菌類病)	

お願い

部会参加の皆様へ

- ・受付場所： 共通講義棟A エントランスです。
- ・事前申し込み済みの方：
講演要旨集，名札/領収書，および，名札ケースをお渡しします。名札と領収書の払い込み金額をご確認下さい。別途領収書の必要な方は申し出て下さい。
- ・当日申込みの方： 参加費（一般5,000円，学生3,000円），講演要旨集代（2,000円），情報交換会費（一般5,000円，学生3,000円）を必要に応じてお支払いいただき，領収書，講演要旨集，名札ケースを受け取って下さい。
- ・宿泊情報提供のお願い： コンベンション協会からの助成金を申請するために皆様のお名前，宿泊施設名および宿泊日数の情報が必要となりますので，以下のURLからご記入ください。事前に記入していただいで構いません。ご協力お願い致します。

<https://forms.gle/qxEhoGWGYim6j8NS6>

- ・会場での注意事項：
会場内では名札を常時身につけて下さい。名札ケースは関西部会で再利用しておりますので，部会終了時に各会場の出入り口にてご返却下さい。
携帯電話など音が出る電子機器は，講演会場内では電源をお切りいただくかマナーモードの設定をお願い致します。
キャンパス内は全面禁煙です。 近隣のコンビニエンスストア等には喫煙場所を設けている店舗もあります。
- ・その他のご案内：
休憩室として，A12教室，A23教室をご利用下さい。
昼食等には，構内の食堂（大学会館内）や売店，近隣の飲食店等をご利用ください。構内には，自動販売機も多数設置されております。不明な点や要望などがありましたら，部会スタッフに遠慮なくお申し出下さい。

発表者の皆様へ

- ・発表10分（予鈴8分），討論2分の計12分の時間厳守で進行をお願い致します。
- ・発表用ファイルは，前もってWindows版「PowerPoint 2019」で正常に表示されることを必ずご確認ください。発表用ファイルは，スライドサイズは標準の4:3で正常に表示されることを確認のうえ持参して下さい。
- ・スライド作成に際しては，特殊なフォントや機種依存文字は使わないで下さい。また，後部座席からでも判読できるように，小さい文字や細かい図表の使用は避けて下さい。
- ・受付時に，発表スライドのファイル名は「発表番号-発表者氏名.pptx」（例，101-松山太郎.pptx）としてください。発表番号は半角文字，括弧「」は不要です。
- ・発表スライドのファイルは，必ずウイルスチェックをお済ませの上，USBメモリに保存して持参し，**1日目の発表者は9月19日（木）13:00まで，
2日目の発表者は9月19日（木）17:30までに受付に提出をお願いします。**
また，提出時にご自身で必ず動作確認をお願いします。
USBメモリはその場で返却しますが，念のため発表終了まではご自身でお持ち下さい。

- ・各発表のPowerPoint スライドショーの開始・終了は会場係が行いますが、発表中のスライド送り等は、PC のキーボードまたは会場備え付けレーザーポインターの操作により発表者ご自身で行っていただきます。なお、サイズが重いファイルはパソコン動作に不具合をきたすことがありますので、なるべく軽いファイルをご準備ください。
- ・講演要旨の訂正箇所が多い場合（訂正が2カ所以上）は、朱書きで訂正した要旨のプリントアウトを座長に提出して校閲を受けるとともに、最終的な訂正原稿のファイルを10月4日（金）までに、メールに添付して本年度の関西部会開催地事務局のアドレス（yaeno@agr.ehime-u.ac.jp）宛まで送付し、必ず受領連絡をお受け下さい。

座長の皆様へ

- ・部会前に講演要旨を読み、必要があれば事前のメールや部会当日の発表者との直接打合せ等で、要旨の訂正をお願いして下さい。
- ・発表者から要旨の訂正依頼があった場合は、座長用の講演要旨集に赤字で直接記入するか、該当ページに訂正原稿を挟み込んで下さい。
講演要旨の訂正箇所が多い場合は、訂正要旨のプリントアウトを校閲し、発表者に対して訂正原稿のファイルを10月4日（金）までに本年度の関西部会開催地事務局のアドレス(yaeno@agr.ehime-u.ac.jp)宛に送付するようご指示下さい。
- ・発表10分（予鈴8分）、討論2分の計12分の時間厳守で進行をお願い致します。

<会場までのアクセス>

◆ 松山空港から空港リムジンバス（飛行機でお越しの方）

JR松山駅まで約15分

伊予鉄松山市駅まで約23分

大街道まで約30分

その後のルートは以下をご参照下さい。

◆ JR松山駅から（JRでお越しの方）

伊予鉄市内電車（古町方面行き）に乗り換え、赤十字病院前まで約20分、徒歩で約5分

◆ 伊予鉄松山市駅から（高速バスでお越しの方）

伊予鉄市内電車環状線（大街道方面行き）に乗り換え、赤十字病院前まで約16分、徒歩で約5分

◆ 大街道から（高速バスでお越しの方）

徒歩で約17分

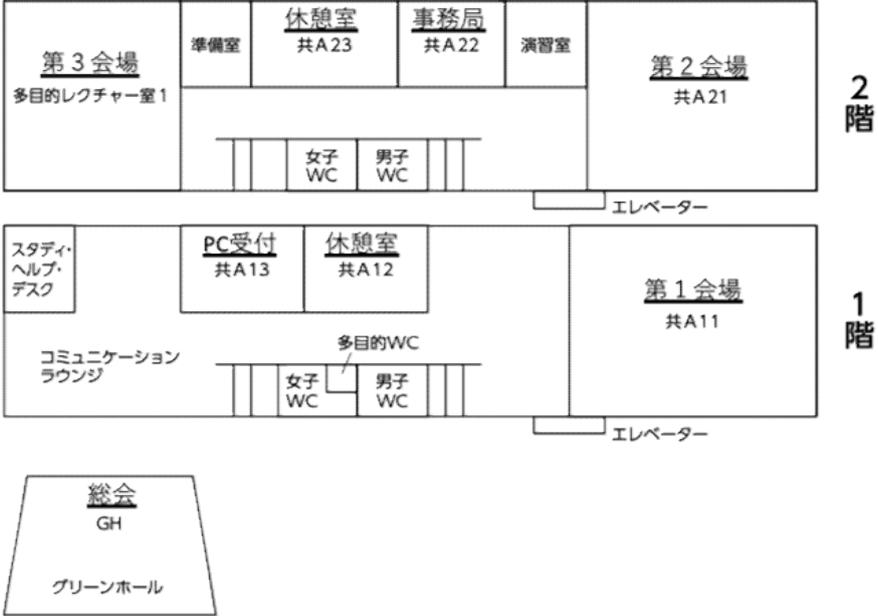
※ 伊予鉄市内電車及び空港リムジンバスでは全国交通系ICカード（Suica・PASMO等）を使用できますが、路線バスは対応していませんのでご注意ください。

詳しくは伊予鉄 HP をご覧ください（https://www.iyotetsu.co.jp/ticket/ic_card.html）

※ 大学内の駐車場はご利用いただけませんので、お車でお越しの方は周辺の有料駐車場をご利用ください。



・ 総会	グリーンホール	・ 受付	共通講義棟エントランス
・ 第1会場	共A11	・ PC受付	共A13
・ 第2会場	共A21	・ 休憩室	共A12, 共A23
・ 第3会場	多目的レクチャー室1	・ 役員会	共A22
・ 情報交換会	大学会館内PALTO	・ 事務局	共A22



「関西部会と宿主特異性と私」

令和6年度 日本植物病理学会関西部会長
高野義孝（京都大学農学研究科）

多くの場合、植物病原性の糸状菌（以下、植物病原菌）は明確な「宿主特異性」を示す。しかし、植物病原菌の宿主特異性がどのように成立しているのか、その分子的背景の理解はいまだ限定的である。植物病原菌の宿主特異性成立のメカニズムは、植物病原菌誕生のメカニズムとも密接にリンクする重要な問題であり、これまでに多くの研究者がこの問題に魅了されてきたと言っても言い過ぎではないだろう。なぜ、この病原菌は、こっちの植物には感染できて、あっちの植物には感染できないのか？こんなクリアーで重要な問いに惹かれるのも無理はないと思う（かくいう私もその一人である）。そして、この関西部会は、この宿主特異性の研究において中心的役割を果たしてきたと言ってもやはり言い過ぎではないと思う。*Alternaria alternata* を対象とした宿主特異的毒素の研究、受容性誘導の発見とそれに続くサプレッサーの研究、遺伝子対遺伝子説によって説明される宿主特異性決定機構の研究など、画期的な研究成果が多数発表されている。

筆者は学生時代に指導教員であった久保康之先生を通じて、ウリ類炭疽病菌（*Colletotrichum orbiculare*）という植物病原菌と出会い、それ以降、一貫して本菌を研究している。当初は本菌の感染プロセスにおける形態形成、特に付着器と呼ばれるメラニンにより着色している侵入器官の形態形成に夢中になっていたが、ある時期から、この宿主特異性の問題に心を奪われてしまった（関西部会に常に参加していた影響は大きいかも）。

非宿主植物であるシロイヌナズナ上においては、ウリ類炭疽病菌を含む不適応型の炭疽病菌は、付着器を形成しても、その付着器から侵入菌糸を形成することはできない。これは「非宿主抵抗性」と呼ばれる極めて頑強な抵抗性のためである。一方で、感染できる菌は宿主植物における本抵抗性を抑制していることは明白である。では、どのようにして抑制しているのだろうか？この問題を解ければ、炭疽病菌の宿主特異性、もっと正確に書くなら、その基本的親和性（basic compatibility）の分子基盤を解明できるはずである。

「エフェクター」という言葉は、2000年ごろから使われ始めた言葉で、病原性に関わる分泌タンパク質の総称である。筆者は炭疽病菌において、このエフェクターが非宿主抵抗性を抑制し、宿主特異性（基本的親和性）の成立に貢献しているのでは、と仮説を立て、非宿主抵抗性とエフェクター、双方について並行して研究をスタートさせ、現在に至っている。その結果として、炭疽病菌に対する非宿主抵抗性については、シロイヌナズナを対象としてその分子のアウトラインをある程度は明らかにしてきた（と思う）。一方、エフェクターについてはその研究は長期間難航していたのだが、近年になり、ウリ類炭疽病菌のウリ科作物に対する宿主特異性に関与する新規エフェクターEPC1、EPC2、EPC3、EPC4の発見に成功している。この成果より、エフェクターがウリ類炭疽病菌の宿主特異性成立の立役者であることが判明し、幸運にも当初の仮説は間違っていなかったようである。

現在、このEPCエフェクターの発見を端緒にして炭疽病菌の宿主特異性成立機構の解明に向けて研究中である。さらにEPCエフェクターの攻撃が効かない耐病性作物の創出を目指している。この新技術のコンセプトは、非常にシンプルに述べるなら、その病原菌にとっての宿主を非宿主に改変することであり、非宿主抵抗性の頑強性から鑑みて、その耐病性の永続性が強く期待できると考えている。

9月19日	第1会場	第2会場	第3会場
	座長 津島綾子 101-104	座長 松浦昌平 201-204	座長 安田盛貴 301-304
14:20	101 Rmg8と2NS転座染色体が付与するコムギいもち病抵抗性効果の比較と2NSに対応する非病原力遺伝子の同定 ○柴田茉依・吉岡資洋・土佐幸雄・足助聡一郎(神戸大院農)	201 汚染花粉からのニホンナシ花腐細菌病菌のPCR検出法の検討 ○吉原千尋 ¹ ・長谷川拓也 ² ・宮嶋一郎 ² ・棚橋恵 ² ・須崎浩一 ³ ・大崎久美子 ⁴ (¹ 鳥取大院持続性・ ² 新潟県農総研園研セ・ ³ 農研機構植防研・ ⁴ 鳥取大農)	301 高湿度はシロイヌナズナにおいてオートファジーの活性化を介して細菌抵抗性を抑制する ○白濱蕉馬 ¹ ・山田晃嗣 ² ・吉本光希 ³ ・三瀬和之 ¹ ・高野義孝 ¹ ・峯彰 ¹ (¹ 京大院農・ ² 徳島大院社会産業理工, ³ 明治大農)
14:32	102 オオムギが保有するいもち病抵抗性遺伝子 <i>Rmo2</i> の病原体認識機構 ○片山瑛美 ¹ ・高橋美乃 ¹ ・安達広明 ² ・土佐幸雄 ¹ ・足助聡一郎 ¹ (¹ 神戸大院農, ² 京大院農)	202 ミョウガからのファイトプラズマの検出 ○岡田知之・下元祥史(高知農技セ)	302 シロイヌナズナにおける CEP ペプチドの成長と免疫に対する作用(3) CEP ペプチドファミリーの機能的冗長性と特異性 ○澤田健太郎 ¹ ・長谷川晴香 ¹ ・坂田七海 ¹ ・松井英讓 ¹ ・能年義輝 ¹ ・一瀬勇規 ¹ ・白石友紀 ² ・豊田和弘 ¹ (¹ 岡大院環生自・ ² 岡山生物研)
14:44	103 コムギいもち病菌におけるヒストン修飾H4K20me3の機能解析 ○森本熱海・山崎聖翔・Thach An Dang・小林奈月・池田健一・中屋敷均(神戸大院農)	203 黄化症状を示すメロンから検出された cucurbit aphid-borne yellows virus (CABYV) について ○小幡善也・角大樹・松本敏幸・北野大輔・金子誠(滋賀防除所)	303 タンパク質の立体構造予測に基づいたタバコ野火病菌のType III effectorと標的宿主因子間の相互作用の検証 ○黒江香那 ¹ ・赤繁奏多 ¹ ・檜原沙知 ¹ ・坂田七海 ¹ ・能年義輝 ¹ ・豊田和弘 ¹ ・中神弘史 ² ・一瀬勇規 ¹ ・松井英讓 ¹ (¹ 岡大院環生・ ² MPIPZ)
14:56	104 <i>Stenotrophomonas maltophilia</i> は酸化ストレスを緩和しいもち病菌の感染を助長する ○松原くるみ・小山舜平・中屋敷均・池田健一(神戸大院農)	204 LAMP法をベースにした複数種のウイルス病を同時診断できるマイクロ流体デバイスの開発 ○恒川健太 ¹ ・稲垣怜那 ¹ ・鈴木良地 ¹ ・水上優子 ¹ ・福田至朗 ¹ ・柴田隆行 ² (¹ 愛知農総試・ ² 豊橋技科大)	304 タバコ野火病菌の誘引物質の同定 ○渡邊雄太 ¹ ・Thang Nguyen Phuoc Quy ¹ ・島田佳季 ² ・菅哲朗 ² ・松井英讓 ¹ ・能年義輝 ¹ ・豊田和弘 ¹ ・一瀬勇規 ¹ (¹ 岡大院環境生命自然科学・ ² 電通大院情報理工学)

9月19日	第1会場	第2会場	第3会場
	座長 佐々木一紀 105-108	座長 佐藤育男 205-208	座長 峯彰 305-308
15:08	105 イネ免疫におけるMAPKとRLCKを介したユビキチンリガーゼPUB44の制御機構の解明 ○井澤夏人 ¹ ・西村直也 ¹ ・吉村智美 ¹ ・山口公志 ¹ ・峠隆之 ² ・川崎努 ¹ (¹ 近大院農・ ² 奈良先端大)	205 <i>Cercospora</i> sp. ME202由来ジテルペノイドアルデヒドtraversianalのキュウリ炭疽病菌に対する作用機構について ○井野真稔 ¹ ・木原淳一 ^{1,2} ・上野誠 ^{1,2} (¹ 鳥取連大・ ² 鳥根大自然)	305 Role of chemoreceptor for formate in <i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>tabaci</i> 6605 in tobacco infection ○Thang Nguyen Phuoc Quy・Yuta Watanabe・Yoshiteru Noutoshi・Kazuhiro Toyoda・Hidenori Matsui・Yuki Ichinose (Grad. Sch of Environ, Life, Natural Sci. and Tech, Okayama University)
15:20	106 炭疽病菌に対するシロイヌナズナの非宿主抵抗性におけるCYP79B2およびCYP79B3の重要性 ○草場百音 ¹ ・太田慶明 ¹ ・Singkaravanit-Ogawa Suthitar ¹ ・三瀬和之 ¹ ・峯彰 ¹ ・入枝泰樹 ² ・高野義孝 ¹ (¹ 京大院農・ ² 信大芸術研究院)	206 イネばか苗病菌における3種のCYP51酵素遺伝子の単独破壊とステロール脱メチル化阻害剤の感受性変化 ○塚本明希 ¹ ・坂原優里 ¹ ・Li Fang Jing ² ・日恵野綾香 ³ ・清水将文 ⁴ ・須賀晴久 ⁵ (¹ 岐大院自然科学・ ² 岐大院連農・ ³ 岐大CENSS・ ⁴ 岐大応生・ ⁵ 岐大iGCORE)	306 比較ゲノム解析を用いた <i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>tabaci</i> の病原因子の解明 ○ムハンマドタウフィクヒダヤト ¹ ・吉岡 桂 ² ・西村隆史 ¹ ・浅井秀太 ³ ・坂田七海 ¹ ・能年義輝 ¹ ・豊田和弘 ¹ ・一瀬勇規 ¹ ・松井英讓 ¹ (¹ 岡山大院環境生命自然科学・ ² 岡山大農・ ³ 理研CSRS)
15:32	107 植物病原子嚢菌に保存されたSB2遺伝子を恒常発現する <i>Colletotrichum higginsianum</i> の病原性は低下傾向を示す 山口龍真 ¹ ・藏本亜里紗 ² ・青木考 ¹ ・○津島綾子 ¹ (¹ 大阪公大院農・ ² 大阪府大生命環境)	207 QoI 殺菌剤メトミノストロピンはコムギの防御関連遺伝子のプライミング効果を通じて <i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>japonica</i> による黒節病を抑制する ○石橋壮太 ¹ ・井上朱里 ² ・柳楽瑛斗 ² ・市成光広 ³ ・山田 晶 ³ ・櫻本和生 ³ ・白石慎 ³ ・山本 隆 ³ ・坂田七海 ^{1,2} ・松井英讓 ^{1,2} ・能年義輝 ^{1,2} ・一瀬勇規 ^{1,2} ・白石友紀 ⁴ ・豊田和弘 ^{1,2} (¹ 岡大院環境生自・ ² 岡大農・ ³ 住商アグロ・ ⁴ 岡山生物研)	307 タバコ野火病菌に存在するGenomic Island-1, -2の存在形態と機能解析 ○國西ことみ ¹ ・藤澤紀花 ² ・渡邊雄太 ² ・松井英讓 ^{1,2} ・能年義輝 ^{1,2} ・豊田和弘 ^{1,2} ・一瀬勇規 ^{1,2} (¹ 岡山大農・ ² 岡山大院環境生命自然科学)
15:44	108 ジュズサンゴ炭疽病(新称)を引き起こす多犯性炭疽病菌 <i>Colletotrichum tropicale</i> は種々のファイトアレキシンに耐性を持つ ○芦田晃・小鹿一・佐藤育男・千葉壮太郎・竹本大吾(名大院生農)	208 プロヒドロジャスモン液剤処理によるトマト苗での褐色輪紋病の抑制効果 ○松浦昌平・竹原有志・清水佐知子(広島総研農技セ)	308 タバコ野火病菌に存在するGenomic Island-1のトマト斑葉細菌病への導入による解析 ○藤澤紀花・渡邊雄太・松井英讓・坂田七海・能年義輝・豊田和弘・一瀬勇規(岡山大院環境生命自然科学)

9月19日	第1会場	第2会場	第3会場
	座長 足助聡一郎 109-112	座長 内橋嘉一 209-212	座長 平田久笑 309-312
15:56	109 シロイヌナズナの病原菌由来スフィンゴ脂質の認識に関与する遺伝子の単離 ○Seowon Choi ¹ ・清水元樹 ² ・阿部 陽 ² ・竹本大吾 ³ ・高野義孝 ¹ ・寺内良平 ^{1,2} ・加藤大明 ¹ (¹ 京大院農・ ² 岩手手工研・ ³ 名大院生農)	209 ブドウ貯蔵病害に対するカラシ抽出物分包製剤の有効性 ○苧坂大樹・鷲尾建紀・石井恵 (岡山農研)	309 植物抵抗性誘導剤アシベンゾラルS-メチルによるキャベツ黒斑細菌病の防除メカニズムの解明 (1) ○森本菜梨 ¹ ・宮川茉莉 ¹ ・白杵義侑 ¹ ・石賀康博 ² ・坂田七海 ^{3,4} (¹ 筑波大院生命地球・ ² 池田樹木医・ ³ 岡山大農・ ⁴ 岡山大院環境生命自然科学)
16:08	110 CDPKによるRBOHのリン酸化はHR細胞死を伴う持続的ROS生産を制御する ○日野雄太・矢田充洋・白石佑太郎・吉岡美樹・吉岡博文 (名大院生農)	210 イチゴうどんこ病に対するSDHI剤6剤の防除効果 ○浅野峻介・堀浩太郎 (奈良農研セ)	310 植物抵抗性誘導剤アシベンゾラルS-メチルによるキャベツ黒斑細菌病の防除メカニズムの解明(2) ○宮川茉莉 ¹ ・森本菜梨 ¹ ・白杵義侑 ¹ ・石賀康博 ² ・坂田七海 ^{3,4} (¹ 筑波大院生命地球・ ² 池田樹木医・ ³ 岡山大農・ ⁴ 岡山大院環境生命自然科学)
16:20	111 ベンサムアナタバコにおけるモジュレーターNLRのN末端配列の機能解析 ○本田晃大 ¹ ・藤田健太郎 ² ・寺内良平 ¹ ・安達広明 ^{1,3} (¹ 京大院農・ ² 阪大院薬・ ³ JSTさきがけ)	211 タマネギべと病菌の一次伝染株発病予防効果の検証 ○西村文宏 ^{1,2} ・池田健一 ² ・片山貴博 ¹ (¹ 香農試・ ² 神戸大院農)	311 キャベツ黒斑細菌病菌 <i>Pseudomonas cannabina</i> pv. <i>alisalensis</i> における植物毒素コロナチンの産生調節因子の探索 ○井上萌 ¹ ・白杵義侑 ¹ ・石賀康博 ² ・坂田七海 ^{3,4} (¹ 筑波大院生命地球・ ² 池田樹木医・ ³ 岡山大農・ ⁴ 岡山大院環境生命自然科学)
16:32	112 レーザー熱膨張式マイクロインジェクション技術を利用したリアルタイムシングルセルHR細胞死イメージング解析 ○岡久真也 ¹ ・小川翔也 ¹ ・清水茜 ¹ ・小林括平 ¹ ・吉田健太郎 ² ・八丈野孝 ¹ (¹ 愛媛大院農・ ² 京都大・院農)	212 照射距離別でのUV-B処理によるキク白さび病に対する防除効果 ○堀浩太郎・浅野峻介 (奈良県農研セ)	312 モモせん孔細菌病菌の病原性評価における接種法の確立 ○坂田七海 ^{1,2} ・向原隆文 ³ ・嘉美千歳 ³ ・能年義輝 ^{1,2} ・豊田和弘 ^{1,2} ・松井英譲 ^{1,2} ・一瀬勇規 ^{1,2} (¹ 岡山大農・ ² 岡山大院環境生命自然科学・ ³ 岡山生物研)

9月19日	第1会場	第2会場	第3会場
16:44	<p>座長 安達広明 113-116</p> <p>113</p> <p>シロイヌナズナに感染する新たなうどんこ病菌の分離</p> <p>○福井奈緒¹・高橋力²・鮎川侑¹・小林括平¹・八丈野孝¹ (愛媛大院農・²愛媛大農)</p>	<p>座長 辻元人 213-216</p> <p>213</p> <p>メヒシバ根より分離された<i>Corynascella humicola</i>のイネ科植物における生長促進および抵抗性誘導効果</p> <p>○向子愷・中屋敷均・池田健一 (神戸大院農)</p>	<p>座長 都筑正行 313-315</p> <p>313</p> <p>イネ白葉枯病菌の推定ヒスチジンキナーゼ XOO_2200および推定レスポンスレギュレーター XOO_2199の機能解析</p> <p>○中尾菜緒・南美由紀・伊川有美・津下誠治 (京府大生命環境)</p>
	<p>16:56</p> <p>114</p> <p>オオムギうどんこ病菌エフェクター APEC1の標的候補であるグリコール酸オキシダーゼホモログの解析</p> <p>○高橋力¹・小出陽菜²・片山貴博²・井上智絵²・香口智宏²・小林括平²・山岡直人²・西内巧³・中神弘史⁴・八丈野孝² (¹愛媛大農・²愛媛大院農・³金沢大疾患セ・⁴マックスブランク研)</p>	<p>214</p> <p>キュウリ炭疽病菌 <i>Colletotrichum orbiculare</i>に対する<i>Streptomyces</i> sp. O3株の凍結乾燥菌体による生物防除活性</p> <p>○木村直人¹・井野真稔¹・木原淳一^{1,2}・上野 誠^{1,2} (¹鳥取連大・²島根大自然)</p>	<p>314</p> <p>イネのbZIP型転写因子を制御する新規免疫因子ZIP3の機能解明</p> <p>○豊田宗一郎・山田朋輝・西村太樹・川崎努・山口公志 (近大院農)</p>
	<p>17:08</p> <p>115</p> <p>オオムギうどんこ病菌による葉肉細胞内の色素体変化</p> <p>○長門香澄¹・在間玄香²・鮎川侑²・小林括平²・藤井祥³・岩瀬哲⁴・久野裕⁵・小林康一⁶・永田典子⁷・八丈野孝² (¹愛媛大農・²愛媛大院農・³弘前大農生・⁴理研CSRS・⁵岡山大植物研・⁶大阪公大院理・⁷日本女子大理)</p>	<p>215</p> <p><i>Burkholderia</i> sp. HMS65からのイネいもち病菌の自己感染促進因子2'-deoxyuridineの代謝酵素の精製と機能解析</p> <p>○胡浩偉・前島浩香・塚原陸斗・千葉壮太郎・竹本大吾・佐藤育男 (名大院生農)</p>	<p>315</p> <p>OsIAA13によって制御されるジャスモン酸とオーキシンが関与するイネ白葉枯病抵抗性機構に関する研究</p> <p>○鈴木豪¹・森安裕太郎²・藤井ゆみ²・宇治雄也¹・福田麻夏²・五味剣二^{1,2} (¹愛媛連大農・²香川大農)</p>
<p>17:20</p> <p>116</p> <p>オオムギうどんこ病菌による表皮細胞プラステドの崩壊</p> <p>○八丈野孝¹・在間玄香¹・鮎川侑¹・鈴木智子²・小林括平¹・藤井祥³・岩瀬哲⁴・久野裕⁵・松島良⁵・小林康一⁶・永田典子⁷ (¹愛媛大院農・²名古屋大遺伝子・³弘前大農生・⁴理研CSRS・⁵岡山大植物研・⁶大阪公大院理・⁷日本女子大理)</p>	<p>216</p> <p>植物萎凋毒素フザリン酸とその微生物代謝産物の毒性調査</p> <p>○松尾百華・寺元茜・田川克滉・千葉壮太郎・竹本大吾・小鹿一・佐藤育男 (名大院生農)</p>	<p>座長 坂田七海 316-318</p> <p>316</p> <p>青枯病菌OE1-1株におけるフェリシデロフォア受容体遺伝子の同定</p> <p>○里花凜・寺澤夕貴・館田宇宙・植山竜弥・木場章範・大西浩平・曳地康史・都筑正行 (高知大農林海洋)</p>	

9月19日	第1会場	第2会場	第3会場
	座長 鮎川侑 117-120	座長 池田健一 217-219	
17:32	<p>117 ムギ類赤かび病菌におけるガラクトフラノース転移酵素遺伝子 (<i>gfsA</i>) の破壊</p> <p>○長光秀樹¹・金森公太郎¹・日恵野綾香²・清水将文³・須賀晴久⁴ (¹岐大院自然科学・²岐大CENSS・³岐大応生・⁴岐大iGCORE)</p>	<p>217 アスコルビン酸処理が根こぶ病菌 <i>Plasmodiophora brassicae</i> の休眠胞子に与える生理的な影響</p> <p>○井上華菜子¹・原田賢²・小島克洋³・久保中央^{1,2}・辻元人¹ (¹京府大院生環・²京都府農技セ生資セ・³朝日アグリア株式会社)</p>	<p>317 青枯病菌OE1-1株は環境中のFe²⁺とFe³⁺を感知し転写制御因子Fur1とFur2の寄与度を切り替える</p> <p>○館田宇宙・植山竜弥・木場章範・大西浩平・曳地康史・都筑正行 (高知大農林海洋)</p>
17:44	<p>118 ミツバ株枯病菌の分化型に関する考察</p> <p>戸畑幸治¹・○齊藤大幹²・宮島俊介²・小松健¹・有江力¹ (¹農工大院連農・²石川県立大)</p>	<p>218 海藻肥料の卵菌類遊走子に対する殺菌活性とアブラナ科植物根こぶ病に対する抑制効果</p> <p>○植村友絵¹・梅村賢司²・久保中央¹・辻元人¹ (¹京府大院生環・²イノチオホールディングス株式会社)</p>	<p>318 転写制御因子RSp0599は青枯病菌OE1-1株の傷口を介さない感染に必要であり、茎での病原力の抑制に関与する</p> <p>○植山竜弥¹・館田宇宙¹・里花凜¹・井上加奈子²・木場章範¹・大西浩平¹・曳地康史¹・都筑正行¹ (¹高知大農林海洋・²奈良先端大バイオ)</p>
17:56	<p>119 <i>Fusarium oxysporum</i> f. sp. <i>cepae</i> における病原性分化に対する考察</p> <p>○坂根光星¹・伊藤真一²・佐々木一紀² (¹鳥取連大,²山口大農)</p>	<p>219 タケ由来ミズ堆肥の野菜類苗立枯病に対する抑制効果と肥料成分の評価</p> <p>○川澄留佳¹・東條元昭¹ (¹大阪公大院農)</p>	
18:08	<p>120 カプシジオール処理によって特異的に誘導されるMFS型トランスポーターは、灰色かび病菌のカプシジオール耐性に関与する</p> <p>福島啓太・Abriel Salaria Bulasag・芦田晃・黒柳輝彦・佐藤育男・千葉壮太郎・小鹿一・○竹本大吾 (名大院生農)</p>		

9月20日	第1会場	第2会場	第3会場
	座長 山口公志 121-124	座長 岡田知之 220-223	座長 望月知史 319-322
9:00	121 植物病原糸状菌 <i>Rhizoctonia solani</i> の遺伝子発現抑制法と遺伝子導入法の検討 ○橋野賢生・渡邊恵・坂田七海・松井英譲・一瀬勇規・豊田和弘・能年義輝(岡山大院環境生命自然)	220 野生きのこから分離された内生真菌の共培養法によるイネいもち病菌に対する新規抑制物質の探索 ○廣岡拓真 ¹ ・井野真稔 ² ・木原淳一 ^{1,2} ・上野誠 ^{1,2} (¹ 島根大自然・ ² 鳥取連大)	319 クリ胴枯病菌に感染したハイポウウイルス3の樹体内、試験内挙動を支配する欠損RNA ○王鈺寧 ¹ ・久野昌 ¹ ・Bradley I. Hillman ² ・Daniel Rigling ³ ・鈴木信弘 ¹ (¹ 岡山大植物研・ ² ラトガーズ大植物科学部・ ³ スイス国立研WSL)
9:12	122 ミナトカモジグサ葉上で観察された紋枯病菌の感染行動の役割の解析 ○山田悠生 ¹ ・前田直輝 ² ・渡邊恵 ¹ ・坂田七海 ¹ ・松井英譲 ¹ ・一瀬勇規 ¹ ・豊田和弘 ¹ ・能年義輝 ¹ (¹ 岡山大院農・ ² 岡大農)	221 養液栽培で発生するトマト立枯病の伝搬に関する評価 ○川上 拓 ¹ ・村田 つばさ ¹ ・林 裕介 ² ・中島千晴 ² (¹ 三重農研・ ² 三重大生資)	320 RnMBV1の5'非翻訳領域にIRESと自己切断リボザイムが共存する可能性 ○山内健太郎 ¹ ・村田佳乃子 ¹ ・佐藤育男 ¹ ・竹本大吾 ¹ ・鈴木信弘 ² ・千葉壮太郎 ¹ (¹ 名大院生農・ ² 岡山大IPSR)
9:24	123 イネ紋枯病菌 <i>Rhizoctonia solani</i> AG-1 IAのシロイヌナズナでの感染行動 ○前田直輝 ¹ ・山田悠生 ¹ ・栗川真利亜 ² ・長尾怜子 ² ・渡邊恵 ¹ ・坂田七海 ^{1,2} ・松井英譲 ^{1,2} ・一瀬勇規 ^{1,2} ・豊田和弘 ^{1,2} ・能年義輝 ^{1,2} (¹ 岡山大院環境生命自然・ ² 岡山大農)	222 <i>Globisporangium irregulare s.l. complex</i> によるワスレナグサ根腐病(新称) ○五十嵐美優 ¹ ・東條元昭 ^{1,2} ・浅野峻介 ³ (¹ 大阪府大生環・ ² 大阪公大院農・ ³ 奈良農研セ)	321 白紋羽病菌における分生子吻合管形成の特徴付け ○坂上千洋 ¹ ・坂口耕太 ¹ ・畑中郁穂 ¹ ・兼松聡子 ² ・中屋敷均 ¹ ・池田健一 ¹ (¹ 神戸大院農・ ² 農研機構果樹茶部門)
9:36	124 新規植物ホルモンN-ヒドロキシピペコリン酸の配糖化酵素の同定と機能解析 ○包継源 ¹ ・内山大河 ¹ ・楠和輝 ¹ ・篠原優佳 ¹ ・谷川友里佳 ² ・渡邊恵 ¹ ・坂田七海 ^{1,2} ・松井英譲 ^{1,2} ・一瀬勇規 ^{1,2} ・豊田和弘 ^{1,2} ・石濱伸明 ³ ・白須賢 ³ ・能年義輝 ^{1,2} (¹ 岡山大院環境生命自然・ ² 岡山大農・ ³ 理研(CSRS))	223 <i>Pseudoidium</i> sp.によるコマツナうどんこ病(新称) ○田中貴幸 ¹ ・東條元昭 ² (¹ 大阪環農水研・ ² 大阪公大院農)	322 いもち病菌の新規マイコウイルスPoUV1の <i>in vitro</i> 転写による感染系の確立 ○村上敦哉・齋藤瑠衣・池田健一・中屋敷均(神戸大院農)

9月20日	第1会場	第2会場	第3会場
9月20日	<p>座長 能年義輝 125-127</p> <p>9:48 125 標的遺伝子破壊法を用いたACT毒素生合成におけるORF45の機能解析</p> <p>○廣野竜也¹・中島健登¹・田中佐和¹・津木悠吾¹・増中章¹・宮本蓉子¹・大谷耕平¹・柘植尚志²・望月進¹・市村和也¹・五味剣二¹・秋光和也¹(¹香川大農・²中部大応生)</p>	<p>座長 浅野峻介 224-226</p> <p>224 <i>Phytophthora palmivora</i>の長期間水保存後のイチジクへの病原性 第2報</p> <p>三宅律幸¹・○松崎聖史¹(¹愛知県経済農業協同組合連合会)</p>	<p>座長 千葉壮太郎 323-326</p> <p>323 タバコのN'によるウイルス抵抗性におけるCBP60ファミリー転写因子の機能解析</p> <p>○ベンセディラ フサム エディン サイド¹・ウヌン オコン オディオン²・八丈野孝^{1,2}・賀屋秀隆^{1,2}・小林括平^{1,2}(¹愛媛大院農・²愛媛連農)</p>
	<p>10:00 126 希少糖が誘起するカンキツ黒腐病菌 <i>Alternaria citri</i>の厚膜胞子形成について</p> <p>○鈴木彩加・有田佳司・山野竜一郎・石原亜由美・大谷耕平・加藤寛・一色淳憲・何森健・吉原明秀・望月進・市村和也・五味剣二・秋光和也(香川大農)</p>	<p>225 キウイフルーツ炭疽病菌の各種果樹に対する病原性について</p> <p>○生咲巖¹・Teeranai Poti²・秋光和也²(¹香川府中果樹研・¹香川大農)</p>	<p>324 キュウリモザイクウイルスの葉緑体局在型外被タンパク質がもたらす退緑症状の発病機構の解析</p> <p>○鹿嶽知生・望月知史(大阪公大院農)</p>
	<p>10:12 127 リンドウ花腐菌核病菌の感染系の確立</p> <p>○John Jewish A. Dominguez^{1,2}・岩井摩利¹・藤崎明香¹・阿部善子¹・岩館康哉³・藤崎恒喜¹(¹岩手生工研²奈良先端大³岩手農研セ)</p>	<p>226 <i>Diaporthe citri</i>によるカンキツ果頂部晩腐病の発生</p> <p>○三好孝典¹・簗島綾華²・廣岡裕史³・柴田優¹・青野光男¹・小林括平⁴・八丈野孝⁴(¹愛媛果樹研セ・²神奈川農技セ・³法政大植物医科・⁴愛媛大院農)</p>	<p>325 キュウリモザイクウイルス感染によるタバコ退緑組織におけるストロミュール形成の解析</p> <p>○善本菜花¹・井口宏紀²・望月知史^{1,2}(¹大阪公大院農・²大阪府大院生環)</p>
	<p>座長 加藤大明 128-130</p> <p>10:24 128 イネにおける免疫制御ペプチド受容体と菌根共生制御因子を介した細菌共生の制御</p> <p>井上加奈子¹・福本有貴¹・佐藤昌直²・藤雅子¹・○西條雄介¹(¹奈良先端大・²北海道大)</p>	<p>座長 川上拓 227-229</p> <p>227 モモ胴枯細菌病の発生要因の探索と土壤水分が発生に及ぼす影響</p> <p>○川上敦子¹・桐野菜美子¹・苧坂大樹¹・高田真里²(¹岡山農研・²井笠普及)</p>	<p>326 外被タンパク質遺伝子のヌクレオチド組成とジヌクレオチド組成を改変したキュウリモザイクウイルスのシロイヌナズナへの病原性</p> <p>○飯田竹都・望月知史(大阪公大院農)</p>

9月20日	第1会場	第2会場	第3会場
10:36	<p>129 ダメージペプチド受容体の二重機能性に基づく免疫・栄養獲得促進機構の解析</p> <p>○土田菜月¹・山下昂太²・梅澤泰史²・西條雄介¹(¹奈良先端大・²農工大院BASE)</p>	<p>228 ワサビ根茎から分離された軟腐性細菌の多様性について</p> <p>○植松小百合¹・岩井優介¹・橋本将典^{1,2}・片井祐介³・平田久笑^{1,2}(¹静大院総合科学・²静大農・³静岡県農技研伊豆)</p>	<p>座長 小林括平 327-329</p> <p>327 カブモザイクウイルス感染によるハクサンハタザオのアントシアニン蓄積の低下と、光化学系と凍結耐性への影響</p> <p>○本庄三恵・吉田直史・工藤洋(京大 大生態研セ)</p>
10:48	<p>130 高湿度における葉内の水環境制御をめぐるシロイヌナズナと<i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>tomato</i> DC3000の攻防</p> <p>○安田盛貴¹・篠澤章久²・平瀬大志¹・上田菜子¹・石崎遼¹・鈴木隆司³・Weng Yuanjie^{4,5}・SK Rahul⁶・四井いずみ²・岡本昌憲^{4,5}・豊田正嗣³・西條雄介¹(¹奈良先端大バイオ・²東京農大バイオ・³埼玉大院理工・⁴宇都宮大バイオ・⁵理研CSRS・⁶東京農大ゲノム解析センター)</p>	<p>229 水稻主要品種における出穂期間にイネもみ枯細菌病の発生に影響を及ぼす気象パラメータの解析</p> <p>○内橋嘉一¹・井之口曜²・原田正志¹・村上翼¹・松本純一¹・芦澤武人²(¹兵庫農技総セ・²農研機構植防研)</p>	<p>328 自然環境下でのTurnip mosaic virus感染及びアブラムシに対するハクサンハタザオのトランスクリプトーム比較解析</p> <p>○大坪雅・工藤洋・本庄三恵(京大・生態研)</p>
11:00			<p>329 メロンにおけるスイカ緑斑モザイクウイルスが種子伝染するための要因検討</p> <p>渡部結花^{1,2}・杉原弘貢³・桑原隼也³・望月知史⁴・石原亨¹・児玉基一朗¹・○木戸一孝¹(¹鳥取大農・²現横浜植木(株)・³鳥取大技術・⁴大阪公大農)</p>